

# セクハラ相談員、心構え確認

## 教員不祥事続き 県教委講座

相次ぐ教員の性的不祥事を受け、県教委は18日、県総合教育センター（掛川市）で、公立高校などの教員が務めるセクハラ相談員を対象にした「セクハラ防止講座」を開き、約150人が相談を受け付ける際の注意点や心構えを学んだ。

ラ防止コンサルタントで、防止セミナーを年100回以上開催している三木啓子さん。三木さんは「相談者は『まさか自分が』仕返しを怖い』などと考えているケースがある」と指摘、相談を受ける際の注意点として、①信頼関係の構築②相談者の立場を認識する③ゆっく

り丁寧に時間をかけて話を聴く――などを挙げた。2人1組の模擬相談では、1人に相手の応対をしないよう指示した上で、もう1人が30秒間自己紹介。参加者からは「相手が話を聞いていないように感じる」などの声が上がった。三木さんは「皆さ

んは『そんな態度はしない』と思うかもしれないが、相談を受ける側に『そんな程度でセクハラ？』などの思いがあると、きちんとうなずいたりできない」と説明した。

その後、1人が相談員役、もう1人が相談者役となるロールプレイが行われ、互いの改善点を確認した。

参加した50歳代の女性相談員は「自分ができていない部分が自覚できた。日頃の声かけで、相談しやすい人間関係を作りたい」と話していた。